

こうもんしゅういのうよう にゅうじじろう 肛門周囲膿瘍（乳児痔瘻）

医学研究所北野病院 小児外科

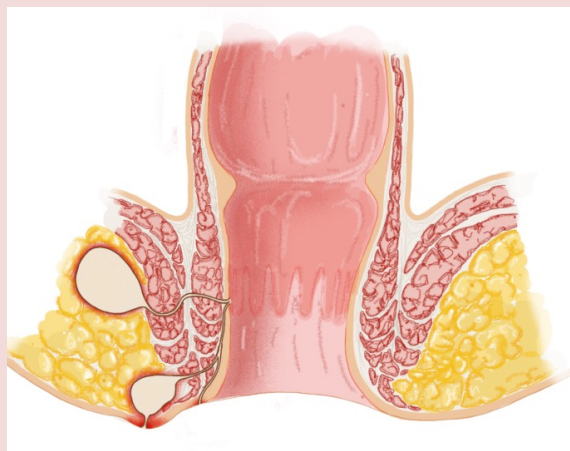
肛門周囲膿瘍とは？

赤ちゃんの肛門の周りが赤くはれて膿（うみ）がたまる病気です。多くは生後1か月くらいから1歳くらいまでに起こります。皮膚の下にたまった膿（うみ）が、皮膚から流れ出すことが多く、膿が出てしまえば、はれは一旦は良くなります。しかし、繰り返し膿（うみ）がたまり赤くはれます。肛門の周りが同じように何か所も、赤くはれることもあります。



原因は？

肛門の奥にはウンチを滑らかに出すような粘液を分泌する管がいくつも開いています。その管にウンチの細菌が入り込み、その奥で繁殖し肛門の周りに膿のたまりを作ります。そのような肛門周囲から膿が流れ出す状態を痔瘻と呼びます。乳児に見られる痔瘻ということで、一般的に乳児痔瘻と呼ばれています。乳児期の不完全な免疫力が関係していると言われていますが、よくわかっていません。



治療は？

大きくはれている時は、外来で少し切開をして膿を出す処置を行います。膿がたまつては排出するといった事を繰り返しますが、ほとんどが1歳ころまでに自然に治ります。膿が出てくることは体には良い事なので、気長に付き合って治っていくのを待ちましょう。

抗生物質の内服や肛門周囲の消毒の必要はありません。きれいに洗って清潔に保ってあげてください。また漢方薬が有効だという報告もあります。

幼児期以降の痔瘻は？

乳児の痔瘻はほとんどが自然に治りますが、中には1歳をこえても治らない場合もあります。その時は手術を必要とする場合があります。また年長児の痔瘻は、大人と同じで手術が必要になることがあります。